

## 1. 評価結果概要表

作成日 2008年2月22日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0872005012		
法人名	医療法人社団 みなみつくば会		
事業所名	グループホーム 筑水苑		
所在地 (電話番号)	茨城県つくば市谷田部6107-1 (電話)029-839-5558		
評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所		
所在地	茨城県取手市井野台4-9-3 D101		
訪問調査日	平成20年1月19日	評価確定日	平成20年4月30日

## 【情報提供票より】(19年12月15日事業所記入)

## (1)組織概要

開設年月日	平成 18 年 4 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	13 人	常勤 10 人, 非常勤 3 人, 常勤換算	11.7 人

## (2)建物概要

建物形態	併設/○単独	○新築/改築
建物構造	木造 造り	
	1 階建ての	1 階部分

## (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	20,500 円
敷金	有( 円) ○無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円) ○無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	450 円	昼食 550 円
	夕食	650 円	おやつ 150 円
	または1日当たり 円		

## (4)利用者の概要

利用者人数	18 名	男性	6 名	女性	12 名
要介護1	4 名	要介護2	4 名		
要介護3	9 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82 歳	最低	70 歳	最高	94 歳

## (5)協力医療機関

協力医療機関名	筑波メディカルセンター病院 ・ 筑波学園病院
---------	------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム筑水苑はつくば市の市街地にあり、近くにショッピングセンターや病院等があるため高齢者が生活するには大変便利な場所に立地している。広々とした敷地内には同法人の老人保健施設やフィットネスクラブ、クリニックが隣接しており、ホームとの連携が図れている。ホームは落ち着いた和風の平屋の建物で、ホーム内も和風の雰囲気ですべて統一され明るく清潔な印象である。今年度のホームの目標として「優しさのあるケア」を掲げ、管理者を中心に職員は利用者に対して丁寧に落ち着いた雰囲気に対応しており、目標の実現に努力している。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の自己評価、外部評価を受けて職員間で話し合いを繰り返し、ヒヤリハット報告と事故報告の充実化を図り、効果的にケアの質の向上につながった。また、職員が不安なく災害時や緊急時に対応できるように研修会、学習会を頻回に行い充実を図った。さらに、介護計画に関しても利用者のバックグラウンドを把握するシートを活用して、利用者のその人らしさの出る介護計画について職員間で検討した。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	スタッフミーティング等で話し合いを繰り返し、管理者がそれをまとめて記入した。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議ではホームでの利用者の生活の様子や、行事に関する事項等の現状や今後の予定を報告して意見をもらっている。利用者や家族からの意見を大切にして検討しているが、地域の区長や市役所の職員にも参加していただき、より円滑に地域と関わられるように努めている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の面会時には努めて丁寧に話を聴くようにして、意見や苦情の吸い上げに努力している。また利用者の健康状態に変化のある場合等は個別に電話等で頻回に連絡をしている。また、家族会を組織しており定期的に家族と話し合う機会を設けている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	利用者は近くの公民館の集まりや催し物に参加したり、また地域の方にホームの行事に参加していただいたり、地域の方と交流する機会を多くもてるように努めている。さらに消防訓練を地域の方と一緒にいたり、災害時の協力の要請を地域の方にお願したり、地域との連携の充実をはかっている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームが目指すサービスのあり方を、職員の話し合いのもと理念として掲げている。各ユニットごとに理念が作られていて、ミーティング時にホームの現状から、必要なサービスのあり方、考え方を検討しその都度作り変えている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念に基づいたケアが提供できるように、毎朝の朝礼やミーティング時に職員間で常に確認しながら実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	隣接する同じ法人が運営するフィットネスクラブを通して地域の方との交流が持たれている。またホームの行事には地域住民や中学生の参加があり定期的な交流が図れている。公民館の集まりや催し物には積極的に参加するようにしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の自己評価、外部評価を受けて月に一回のミーティング時に継続的な話し合いを持ち、改善に向けて取り組んだ。インシデント、アクシデント報告書や緊急時のマニュアルなどの書類も検討を重ね改善した。	○	昨年の自己評価への取り組み、外部評価の結果を受けての取り組みに関して努力が感じられる。今後は職員全員で自己評価、外部評価の意義についてさらに理解を深め、評価への取り組みが日々のケアに直結したものとなるように、また自己評価、外部評価をスタッフミーティング等での問題解決への糸口とする等効果的に評価を利用されることを期待する。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回開催している。構成メンバーは地区長、民生委員、つくば市役所の職員、家族会の代表者、利用者の代表者で、ホームでの利用者の生活の様子の報告や運営に関する意見交換を行っている。さらに、年に2～3回は応急処置、緊急対応訓練等の研修も行っている。		

茨城県 グループホーム筑水苑

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者はつくば市の高齢福祉課や包括支援センターと連携をとりやすくするために、なるべく頻回に出向き情報交換を行うなど努力をしている。また、市役所の職員が直接ホームに来て相談にのる等の協力関係ができており、連携してサービスの向上をめざしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	筑水苑だよりを定期的に家族に発送し、ホームでの利用者の生活の様子を伝えている。また家族の面会時には個別的に利用者の健康状態や暮らしぶり、金銭出納などについて報告し、その都度確認のサインをもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を年に2回設けて、家族から意見をもらう場を作っている。また面会時には直接意見をもらえるように配慮している。玄関には意見箱を設置して自由に苦情や意見を表せるように工夫している。さらに運営推進会議の構成メンバーに家族の代表が入っているため運営に関する意見を言えるような配慮がされている。	○	現在の取り組みに加えて、意見や苦情をはっきりとは伝えられない家族がいることも考慮し、今後は家族会等を効果的に活用し、家族会の中で自由に家族だけで話し合いができる場を設定するなど、少しでも意見や苦情がホーム側に吸い上げられるような更なる工夫が望まれる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員間の入れ替えはほとんどないが、今後法人内での職員の移動は考えられるので、利用者や家族に対しては個別に丁寧に説明して利用者とのなじみの関係を大切に配慮したいと考えている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修は毎月あり、その都度ホーム内でも勉強会を開催している。外部の研修に関しては各職員のレベルに合わせて参加できるようにしている。また研修後は研修報告書の作成、伝達研修にて職員間で学びを共有するようにしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者はつくば市地域密着型連絡協議会を通して、他のグループホームとの情報交換や勉強会を行っている。さらに職員も他のグループホームの行事に参加したり、他のグループホームで研修する等ケアの質の向上を目指した交流が図られている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居に際しては何度も見学に来ていただいたり、空室がある時は2～3日くらいのお試しの宿泊を行っている。実際にホームでの生活を体験していただいてから入居の検討ができるように個別に応じて工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は食事を毎回必ず一緒に摂るなど、常に利用者と共に生活する姿勢を心がけている。また、さりげない会話から職員が利用者を尊重して関わっていることが窺える。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時にホームでの生活に対する本人と家族の意向に関する情報を援助計画の用紙を用いてまとめ、その意向にそった生活ができるように配慮している。担当の職員が主になり、利用者本人の希望を把握して、利用者がやりたいことが自由にでき思い通りの生活が送れるようさまざまな工夫を行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々の暮らしの中で利用者本人が出来ること、したいことが実際に行えるように、本人、家族の思いを反映した介護計画を担当職員を中心に作成し、計画作成担当者が見直しをしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月に1回のミーティング時に利用者に関するカンファレンスを行っている。介護計画書は3ヶ月に1回見直しをしている。さらに利用者の健康面や生活に変化が現れた場合はその都度カンファレンスをして、家族や本人とも話し合い計画の見直しを行っている。	○	3ヶ月に1回定期的に、また利用者に変化があった際にはその都度見直しは行われているが、見直しの根拠や見直しの経過なども記録として残しておくことで、さらに効果的な介護計画の立案につながると考える。また、高齢の利用者の変化の兆しに早期に対応でき実情に即したプランとなるように月に1回の見直しが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	隣接する同じ法人が運営するフィットネスクラブを希望する利用者也利用している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎週近くの医院からの往診があり、利用者全員の健康管理がなされている。さらに利用者本人が希望するかかりつけ医を月に1回受診している。また、年に1回定期健康診断を受診している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者個々に応じた終末期の対応のあり方について、家族と話し合いを行っている。また職員もターミナルケアの研修に参加したり、実際にターミナルケアを実践しているグループホームの現場で研修をしたり、少しずつシステム作りを行っている。	○	現時点では終末期ケアへのシステム作りを行っている段階である。今後は利用者や家族の要望を把握し、それを書面に記録することや、職員全員が不安なく終末期ケアに臨める様に、継続して研修や勉強会を行う一方、医療機関との連携のあり方等、職員間での話し合いを充分行い更に準備をすすめていくことが望まれる。
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者は職員の言葉遣いに関して特に注意しており、スタッフミーティングや日常のケアの場面でその都度指導している。個人情報の保護に関しても注意しており、ホームだより等に写真を載せる際には本人と家族の同意を得ている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者が自分のペースで生活ができるように、食事や入浴、就寝の時間等は特に決めていない。利用者が思うような暮らしができるように職員は利用者個別に応じた支援を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	法人からの方針の下、食事は3食とも併設の老人保健施設から運ばれている。御飯と味噌汁はホーム内で利用者と職員が作っている。月に1回おやつ作りとカレーライス作りの日を設けて、買い物から調理まで利用者が中心に食事作りに関わられるように支援している。	○	認知症の方の生活における「食事」の意義を考えると、もっと食材を選ぶ場面や、調理の場面に関わるような工夫が望まれる。職員間で認知症高齢者の生活での「食事」のあり方について再度話し合い、手作りの食事の日の回数を少しずつ増やしていく等さらなる努力を期待する。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は決まっているが、入浴の時間などは利用者の希望に沿うようにしている。入浴の拒否がある場合は、声かけの工夫をしたり、清拭や足浴など個別に応じて支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の趣味や得意なことが日常行えるように工夫している。さらに、お絞巻きや掃除、食事の配膳等、利用者のできることを役割として生活の中でもってもらい、それが継続できるように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者本人の希望に応じて散歩や買い物、コーヒーを飲みに行く等の支援を行っている。また、ホームでいちご狩りやブルーベリー摘みに出かけたり、つくば市の敬老会へ参加したり、外出の機会を作る工夫をしている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室の窓の鍵は利用者が自由に開閉し、職員が適宜確認している。また、玄関の鍵は日中は開錠しており利用者の自由な外出を支援している。徘徊する利用者には職員が必ずついて安全に配慮しながら見守りをしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に消防署の指導のもとで、避難訓練を行っている。また、運営推進会議で災害時の地域の協力を要請している。災害時の食料の備蓄に関しては現時点はまだ準備していない。今後検討したいと考えている。	○	近隣の方達に協力を得ながら行っている消防訓練は、今後も継続して行っていくことを期待する。また、災害緊急時の食料の備蓄は法人と相談しながら今後早急に検討することが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分と食事摂取量は毎日把握し記録として残している。利用者の食事摂取の状態に応じて、適宜キザミ食にしたり、ペースト状にしたり摂取しやすくなるように工夫している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は過度な飾りつけがなく、季節感を取り入れた植物が置かれ落ち着いた雰囲気である。また、カーテンやよしず等で光の摂り入れを配慮している。さらに浴室やトイレも臭いがこもらないように換気に配慮しており心地よく過ごせるような工夫がなされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、利用者の希望に応じて本人の使い慣れた物を持ち込み、利用者が自由に居心地よく暮らせるような支援を行っている。		